

6月16日 (日)

山に行かない休日は…



本日2回目の日記です。昨日16日(日)は、朝からず〜っと雨が降っていて久し振りに「山に行かない休日」を自宅で過ごしています。いつ以来かなあ〜?と調べてみたところ、3月31日(日)以来だったことが判明しました。ということは…この約2ヶ月半の間、ず〜っと天気恵まれ、毎週末山や沢へ出掛けていた事になります。

なんかこのように書くと、山ばかり行って仕事をしていないように思われる方もいるかもしれませんが、実は仕事は仕事で(パソコン教室の運営)ガッチリと頑張っているのです。昨日15日(土)は、朝9時から夜9時までみっちり12時間も働きました。

昨日は、他のパソコン教室では教えないであろうエクセル統計学の「検定について教えて欲しい!」との依頼や、かといえ「iPhoneからPCへの画像の取り込み方について教えて欲しい!」「〇〇の資料を作成したいのだが…」さらには、ホームページのレイアウトデザインや内容を生徒さんと一緒に考えながら作成したりと、依頼内容は生徒さんにより様々です。どんな依頼が舞い込んでくるか?といつもハラハラ・ドキドキ、そしてワクワクの毎日なんです。

依頼内容は生徒さんにより様々です。どんな依頼が舞い込んでくるか?といつもハラハラ・ドキドキ、そしてワクワクの毎日なんです。



本日は、今週習いに来られる生徒さん用の資料を作成したり、教え方のシミュレーションをしたり、自身のスキルアップのためパソコンの勉強に励んだり。かといえ、今シーズンの山行計画を練ったり、やりたいこと一杯あります。

特に沢計画は無我夢中になり時を忘れてしまうほどです。自分が未遡行の沢で興味深い沢(遡行対象となりうる沢)は無いものかと、岩手や秋田の山岳地帯の2万5千図をみながら物色するのです。まるで宝探しのような感覚で…。

本日、ゴルジュ地形で2万5千図を見る限り面白そうな沢を数本見つけました〜!八幡平にまだこんな沢が残っていたのか?とビックリです。見つけた時の喜びは、とても大きく感動モンです。「本当に面白いかどうか?」それらの沢の遡行記録は、ネットで検索しても皆無ですので「実際に行ってみてのお楽しみ〜♪」ってことになります。

てなことで、山へ行かない週末は「パソコンの勉強」と「沢(山)の勉強」の二本立てで、あっという間に一日が終わってしまいます。山とは違った充実感を味わえる喜びも感じています。結構頭を使いますので、熱中し過ぎて使い過ぎるとフラフラになることも…。今日は、ほんとに平和な日だなあ〜♪って喜びに浸っております。山へ行かない週末も、たまにはいいかも。何事もプラス発想で考える習慣って大切ですよ。

6月16日 (日)

葛根田川・松沢の変貌



14日(金)は、平日ですが運よく?午前中の予定(パソコン教室の仕事)が空いていましたので、即効で八幡平は葛根田川の支流、松沢を単独遡行して参りました。松沢は、2007年から2011年までの5年間に計7回入渓、1年空けた2013年にも入渓し、合計8回も入渓しています。初心者連れて行ったり仕事でガイドしたり、沢初めの足慣らしに遡行したり…。我が家からも近いこともあり、半日コースで遡行できるのも魅力です。

週末16日(日)の降水確率は90%!これじゃ〜山も沢も無理だべなあ〜!今度の週末は、久し振りに大人数(10人越え)での沢山行!しかも、リーダーを務めなければなりません。体力トレーニングと足慣らしを兼ねて、本番前にもう一本入渓しておきたいなあ〜!と欲していたのです。そんな訳で、平日山行という暴挙に出たのです。幸い今日は、お天気も良いし〜♪

松沢の遡行日14日(金)は、午後から仕事が入っていたため、近場の沢でお昼頃には帰宅できる沢!と言えば、限られてしまいます。で、選んだ沢が松沢だったので。2013年以来、6年振り9回目の再遡行となります。この6年間で、どのように変貌したのか?見ものです。「沢も生物だなあ〜!」って、つくづく思います。年月の経過と共に台風や積雪、土砂崩れ等で溪相が大きく変化します。時には「これがあの沢か?」と驚愕したこともあります。この松沢も例外ではありません。

遡行してみた感想は…いや〜!大きく変貌していました。ビックリです。6年前よりもさらに荒れていました。顕著な変化としては、以前は土砂崩れ(大規模な側壁崩壊)地帯は大滝の下までで、その上は普通の綺麗な溪相でスッキリしていました。



今回は、大滝を越えたあとの標高900m付近まで、これまた側壁の崩落によるおびただしい量の倒木と土石が沢床へ散乱していました。言うことは、全行程の約半分が「荒れ放題！」ってことになります。よって、雨天時の入渓は控えた方が良さそうです。地熱が沸いている沢ですので、地質的に脆弱なのかもしれませんね。

とは言うものの、この沢の価値が完全に無くなった訳ではないと思っています。温泉が吹き出る沢は珍しく貴重ですし（掘れば入浴可能）、大滝に掛かっていた大木が流され、インスタ映えするスッキリした滝に変わっていました。この大滝、以前は左から簡単に取り付くことが出来たのですが、ちょっと嫌らしくなっていました（側壁のトラバース）。逆に大滝の直ぐ上にあるもう一つの滝は、以前より登りやすくなりました（上部で右壁をそのまま直登）。



標高900mより上部は、以前のようにスッキリした溪相で遊行を満喫出来ます。フィナーレの栗木ヶ原湿原は、昔のまま健全です。まだ2~3種類の花しか咲いていませんでしたが、来月になれば多くの花っ子達が咲き乱れ楽しませてくれることでしょう。栗木ヶ原湿原からの下山路

では、ブナの原生林（巨木）も見所です。

そうそう、下山中に10人ほどのグループに会い、ビックリしました。この山で人に会ったのは初めてかもしれません。しかも、平日にです。おそらくタケノコ採りのグループだと思われます。朝、葛根田のゲート前にも車の長蛇の列でビックリしましたし（これもタケノコ採りと思われる）。

朝6時40分にゲート前から歩き出し、下山したのが11時でしたので午後からの仕事（授業）に楽勝で間に合いました。全行程4時間20分（登り3時間、下り1時間20分）、本番山行前の良い足慣らしができました。帰路、盛岡市内の幸楽苑にて限定メニューの「[台湾野菜まぜめん](#)（ピリ辛）640円」を食べてみました。麺が1.5倍も入っていてお腹一杯になり、身も心も、そしてお腹も満たされました。PS、『酔いどれ画像掲示板』に今回撮影した写真を掲載しました。ご興味のある方は、ご覧下さいね♪

●『画像掲示板』葛根田川・松沢の変貌

6月10日（月）

沢始め！早池峰山城・滝川 又一沢



昨日は、今シーズン初の沢登りへ行って参りました！場所は、早池峰山城の薬師岳（1,644.5m）に突き上げる猿ヶ石川滝川・又一沢（有名な又一の滝のある沢）。実は、[2007年7月にも一度遊行](#)していて、今回12年振りの再遊行となります。この又一沢、とても素晴らしい沢なのですが、12年前に遊行した際は、中流地帯（標高1200m付近）が大荒れで、おびただしい数の倒木と巨岩との格闘に辟易しました。

「この沢、二度と入ることはないだろうなあ！」と思ったものです。ところが、一週間前の[山岳同人たかじょさんの遊行記録](#)を拝見すると、倒木に関する記述がまったくなく…。「もしかして、あの膨大な倒木帯が台風や集中豪雨で流されスッキリしたのかも？」あれから12年、沢の状態を確認したくて、さらに沢始めの足慣らしにと再遊行してみることにしました。

雪解けで水量が増しているのではないかと？上部に雪渓がまだたくさん残っているのではないかと？との不安もありましたが、最近の早池峰山や薬師岳の登山記録をネットで

調べると、その不安が払拭されました。特に又一沢は南面の沢なので、雪解けが早いのでしょう。今回の遊行～下山で、残雪は全行程において皆無、水量も平水状態でした。ただ、標高が高いせいか、歩いている分には適温なのですが、休憩すると肌寒く感じられました（特に午前中）。

朝4時30分に自宅を出発！駐車場に到着後、軽く朝食を済ませ6時30分には歩き始めました。歩くこと20分ほどで又一の滝に到着。登山道を利用し左岸より高巻き、滝上から入渓し遊行開始！今シーズン初の沢登り、しかも単独行ですので慎重に遊行します。標高950mから1,200mまでの間

が、この沢の真骨頂！次から次へとナメとナメ滝、そして滝が連続し、まったく飽きさせません。しかも、ほぼ全ての滝が快適に直登できるので、まさに楽しさ&美しさマックス♪初級者に沢登りの面白さを知っていただくには、格好の沢かもしれません。もっと遡行されても良い沢だと思います。



1,150mの二俣を左に入り（3対1）、さらに標高1,200mの二俣を左に入ると、水量は一気に減り、ちょっと荒れた感じになりますが（かつての倒木地帯）、遡行上特に問題ありません。さらにその上の1,290mの二俣が見落としやすいので注意が必要です。今回は左沢をツメてみることに。

ここまで登ると源頭の雰囲気になります。水は1,350m付近で早くも枯れてしまいました。山頂まで標高差300mもあります。ここから先が、この沢の本当の核心部かも？ヤブは濃くありませんが、傾斜と距離があります。枝沢が入り組んでいて、歩きやすい所を上手く繋げながら右へ左へと登っていきます。

ルートファインディングを誤ると、それなりのヤブ漕ぎを強いられるかもしれません。山頂にこだわらなければ、1,340m付近の枝沢を利用し登山道へエスケープする手も考えられます。12年前は1,290mの二俣を右へ入ってツメたのですが、ヤブ漕ぎはあまりなかったような…。順調に遡行していた私ですが、1,350mの水が枯れた地

点から山頂直下の登山道に出るまで1時間10分も掛かってしまいました。全体的にヤブは薄いですが、部分的に濃い部分もありますので、ルートの見極めが重要です。

登山口から薬師岳の山頂まで4時間！12年前は3時間30分でしたので、今回は30分オーバー！これには理由があります。今回はヤフオクで先日購入した防水カメラ「オリンパス Tough TG-5」のデビューの日だったので。色んなモードを試しながらたっくさ〜ん撮影したのです。iオートモード、Aモード（絞り優先オート）、Pモード（プログラムオート）、シーンモード。さらに撮影ごとにF値を変えたりもしました。よって、写真撮影にそれなりの時間を費やしてしまったのが、タイムオーバーした原因です。



「これが防水カメラか！」と思うほど、綺麗に撮れていて「このカメラを買って良かった！」と思いました。但し、iオートモードで撮影した場合、コントラストが強調されちょっと「どぎつい色」になってしまうようです。

その理由はピクチャーモードの「[i-Finish](#)」が原因で設定が換えられない仕様になっているとか…。様々なモードで撮影し実験した結果、沢の場合はAモードにし（ピクチャーモードは「Natural」に設定）、シーンに合わせてF値を変えて撮影するのが一番綺麗に撮れることが判明しました。

10時35分、ふう〜！薬師岳（1,644.5m）の山頂に到着！目の前にドカ〜んと早池峰山が聳えます。山頂でセブンイレブンで買ったおにぎりを食べ、下山開始！登り4時間 下り2時間、合計ちょうど6時間の山行となりました（休憩時間含む）。久しぶりの沢登り、ほんと楽しかったな〜♪

下山後は、早池峰神社に寄って祈願しました。霊峰早池峰山を祀る神社で、その歴史は大同元（806）年にまでさかのぼる由緒ある神社で、パワースポットとしても有名のようです。盛岡市内に入ってから下山後の私の楽しみ♪いつもの幸楽苑にて中華そばと餃子を食べました。身も心も、そしてお腹も満ち足りた山行となりました。PS.『酔いどれ画像掲示板に』今回撮影した写真（新しいカメラで撮影）を掲載しました。ご興味のある方は、ご覧下さいね。

●『画像掲示板』早池峰山域・又一沢

6月8日（土）

水流ランナー 二神浩晃君との再会！

昨夜は盛岡駅前の居酒屋「[ももどり駅前食堂](#)」にて、かつての山の後輩（愛弟子）二神君と20年振りに再会し、楽しいひと時を過ごしました。二神君は「水流ランナー」として名を馳せ、今ではスポンサーまで付きラジオ番組に出演したり講演会を開いたり、街中で声を掛けられたり…ちょっとした有名人らしい。一級建築士として仕事に励みながら全国の川と山を走り回っている元気な中年男子なんです！（現在47歳、東京在中の二児のパパ）。

「水流ランナーって何？」ってお思いの方も多いと思います。以下、[彼のホームページ](#)より抜粋します。『全国47都道府県の最高峰に向かって、ひとつの水の流れだけをたどって海から走る。これが“Zero to Summit 47”（ZtS47）である。各都道府県の風土や歴史にふさわしい川の流れを選んで海からたどれば、何かが見えてくるだろう。川選びからはじめるのでやたらと時間はかかる。正解なんてない。誰でもできることだけど、たぶん誰もやったことがない。だったら僕がやるしかない！』



「わざわざ川から山頂目指して走って何が面白いの？登山だけで充分じゃないの？何考えてるの？バカじゃないの？」って思っている方も多いと思います。昔からちょっと変わったヤツだと思っていましたが、その変態振りにさらに拍車がかかった感じです。彼曰く「バカじゃないの？って言われるのが、僕に対する最高の褒め言葉なんです！」と。今回は、[岩手編](#)ということで宮城県の石巻から北上川沿いに岩手山の山頂まで約300キロを6日間掛けて走るのが目的！昨日7日（金）に無事完走！下山後に盛岡駅前の居酒屋で合流し、祝杯兼ねて20年振りの再会を果たしました。



ホームページを通じてお互いの行動は理解していましたが、たまにメールでやり取りしていましたので、20年振りという感じが全然しません。二神君との出会い、それは…20年前に父の死をきっかけに長年住み慣れた東京を離れ、郷里岩手に戻ると決断！その岩手での山の教え子（愛弟子）

第一号が彼だったのです。今でも「師匠」って呼んでくれています。

当時、私と髭のKさんと毎週のように岩登り&沢登りへと連れまわし徹底的に彼を鍛えました。彼の集中力と吸収力たるや、それは凄いものがありました。当時私は37歳（二神君は27歳、髭のKさん47歳）で現役バリバリの時でしたし。

昨日の飲み会で「君は何年くらい岩手にいたっけ？」と聞いたところ「半年ですよ！」と。「え～！3年の間違いじゃないの？」と驚く私。「その岩手での半年間が、僕の人生の中で一番濃厚で宝物です！」と言ってきて嬉しく思いました。その後、彼は青年海外協力隊としてモロッコへ。帰国後は京都、ハイチ、ミャンマーを経て、現在は東京の世田谷区に在住。昨夜は夕方5時から8時まで3時間、震災のこと、山のこと、仕事のこと、その他諸々話題は尽きることなく、あっという間の楽しいひと時を過ごしました。

「全国47都道府県の最高峰を登り終わったら、次はどうするの？」と聞いたところ「今度は、世界の山を目指します！やはり同じく川から攻めます！」と夢を語ってくれました。「おいおい、確かに夢は大事だけど…奥さんは大丈夫なのか？」と心配する私。「走り終わって自宅に帰った後は、妻のご機嫌取りに主夫業？に専念するようにしています！」と、嬉しそうに話す彼の笑顔が印象的でした。陰ながら彼の頑張りを応援したいと思っています。PS.上の写真は、日本で（世界で？）ただ一人の水流ランナー二神君。下の写真は、ももどり駅前食堂の看板料理「ももどり」スパイシーでビールに良くあいます。石巻から岩手山を目指した彼の走行記録は、[ツイッター \(@zts47\)](#) でご覧いただけます。